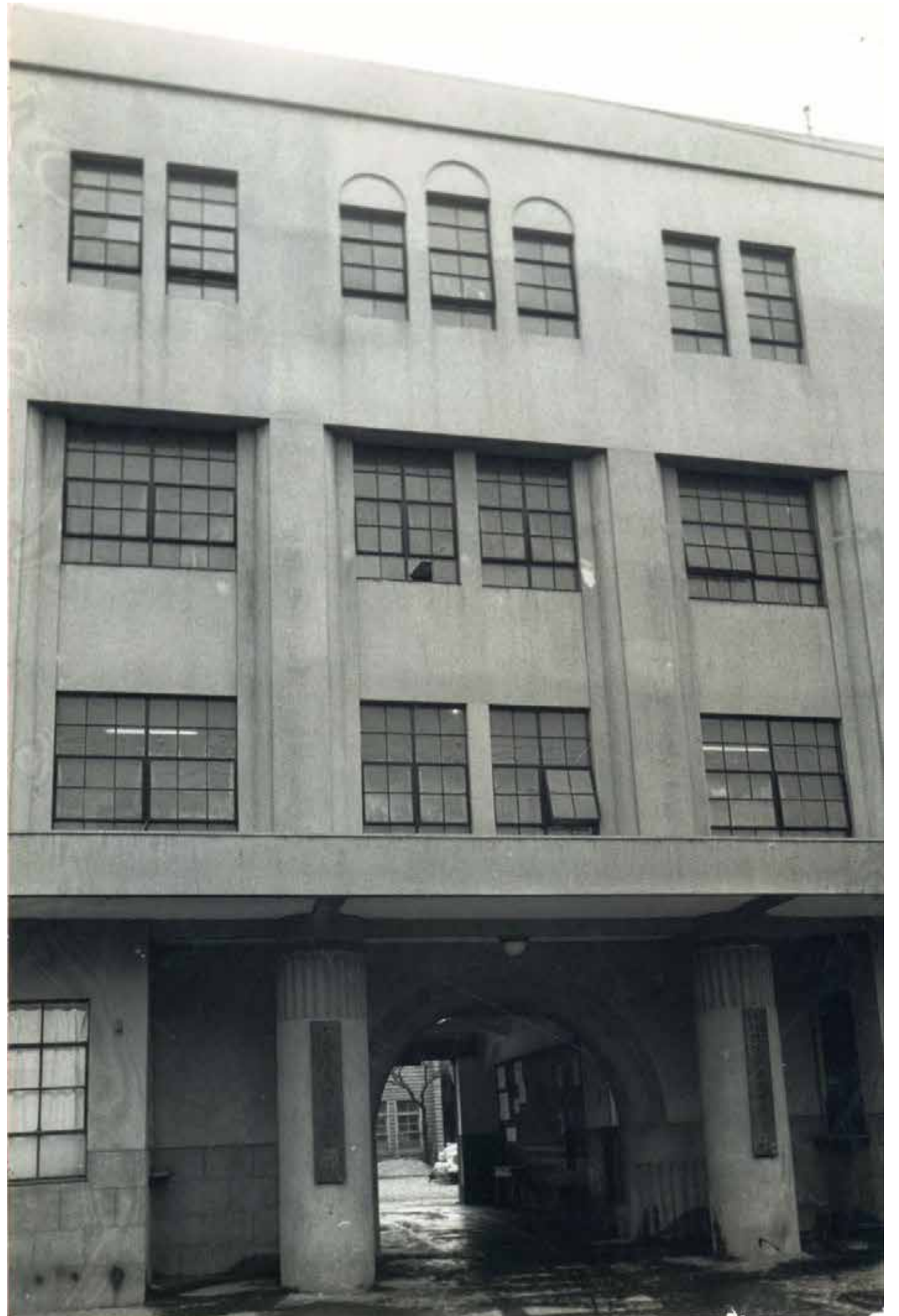


麻布にあった大学(法政大学)



昭和 55年(1980年)：麻布校舎玄関



昭和 27~40年(1952~65年)：麻布校舎



昭和28年(1953年)：麻布校舎



平成26年(2014年)：法政大学跡地付近

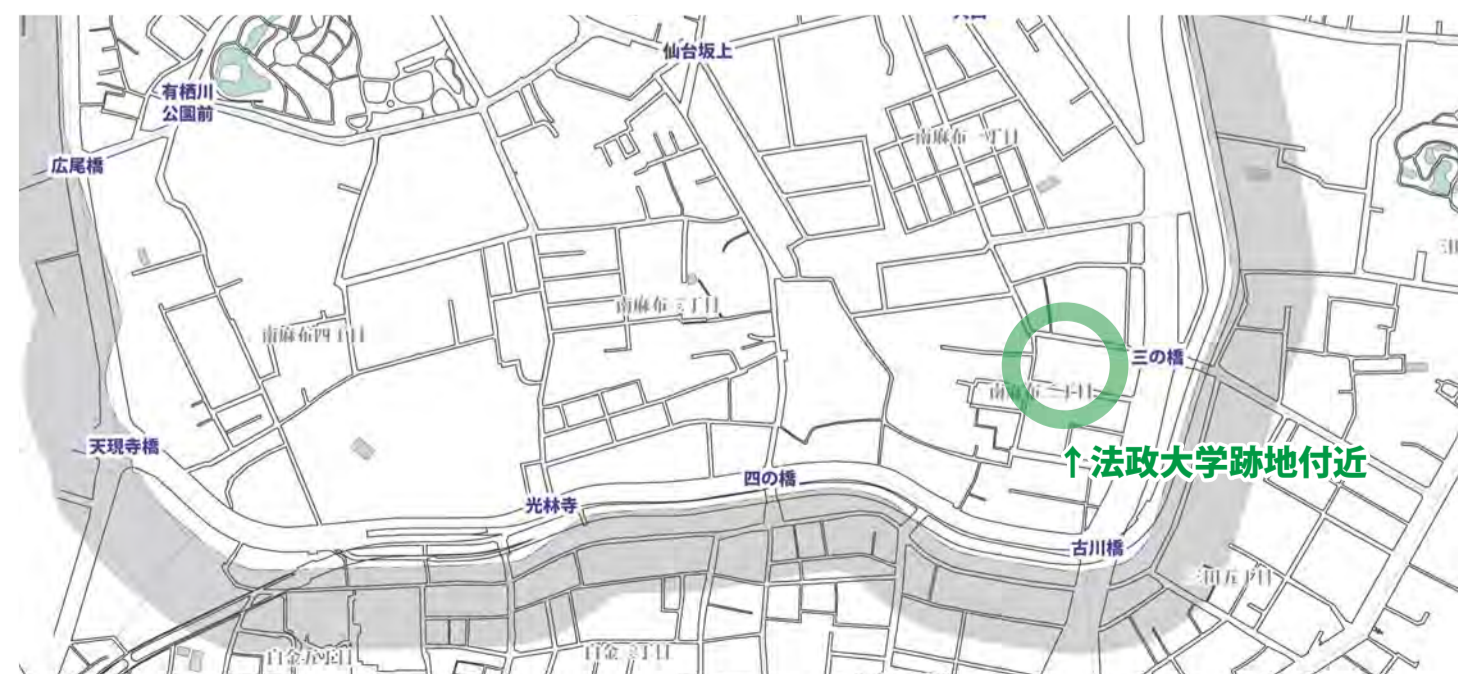


平成26年(2014年)：法政大学跡地付近

中央労働学園大学 → 法政大学社会学部・法政大学工学部
麻布新堀町 (現在の港区南麻布2丁目)

法政大学社会学部は昭和26年(1951年)に中央労働学園大学と合併し、昭和27年(1952年)、法政大学社会学部になった。法政大学工学部は法政大学航空工業専門学校(昭和20年(1945年))が前身で、法政大学工業専門学校を経て、昭和25年(1950年)に法政大学工学部が設置され、後に当地に移転、昭和39年(1964年)頃までであった。その後小金井市梶野町に移転し、現在に至る。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：法政大学史委員会



麻布にあった大学(駒澤大学・電気通信大学)



明治～大正時代:曹洞宗大学林専門学校(曹洞宗大学)



平成26年(2014年):毛利庭園

曹洞宗大学林専門学校

→ 駒澤大学(現在)

明治15年(1882年)、麻布北日ヶ窪に開校し、明治38年(1905年)、曹洞宗大学に改称。駒沢に移転する大正2年(1913年)までの約30年間は港区六本木にあった。



昭和30～40年代(1955～1965年)頃:南麻布四丁目(都営住宅をはさみ安立電気本社を望む)



平成26年(2014年):東京タワー西側の脚付近



平成26年(2014年):ニュー山王ホテル付近



昭和43年(1968年)頃:広尾病院から南麻布四丁目(天現寺橋交差点)を望む

国立電気通信大学

大正7年(1918年)、国立電気通信大学、(通称:電通大)のルーツとなる電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町4丁目4番地(東京タワーの西側の脚付近)にあった小暮幼稚園の2階に創設された。当時、無線通信士の育成をめざしたその場所が、いま首都圏の電波を預かる要所になっている偶然は面白い。

電信協会管理無線電信講習所の前身「帝国無線電信講習会」は、安中電機製作所(現アンリツ(株))が大正5年(1916年)、港区の自社工場内に開設した。安中電機製作所は天現寺橋交差点そば、現在のニュー山王ホテル付近にあった。

筭小学校(校舎)



昭和 11年(1936年)：南から見た校舎

この頃3階建ての建物は珍しく、見晴らしの良い屋上も大人気でした。普通教室だけでなく、たくさんの特別教室もできました。



明治時代：脇門(左)・表門(右)

学校の門は表・脇と二つに分かれていて、表の正門からは男子が、脇の門からは女子が登校しました。門だけでなく、玄関も校舎の両側に二つあり、げた箱も別々になっていました。勉強するときも男子組と女子組に分かれていました。



昭和 45年頃(1970年頃)



昭和初期：木造校舎と鉄筋校舎



昭和 51年(1976年)： 改築中に使われた仮設校舎



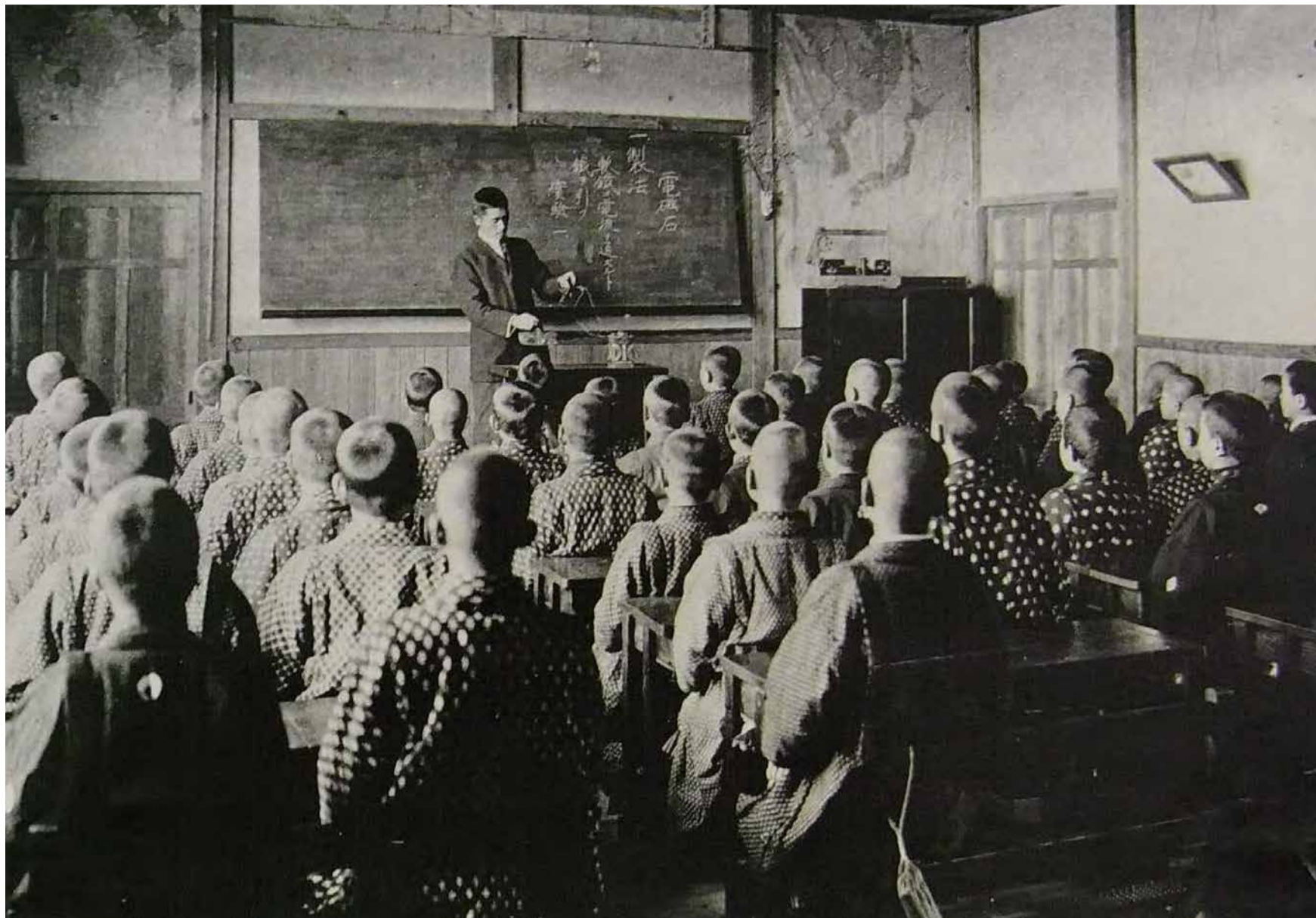
筭(こうがい)小学校は、東京市筭尋常高等小学校として明治40年(1907年)に開校しました。2階建ての木造校舎でした。

大正14年(1925年)末に、東・南・西の三方に、鉄筋2階(一部3階)の校舎が落成し、その後しばらく木造校舎と併用されました。

昭和10年(1935年)には北側にも鉄筋校舎が完成し、東に開けたコの字型の鉄筋校舎は、大戦の戦火をくぐり抜けて昭和49年(1974年)まで使われました。現在の4階建て校舎は、昭和51年(1976年)に完成したものです。

平成 28年(2016年)：現在の校舎

筭小学校(授業)



明治43年(1910年)：男子、理科の学習



明治45年(1912年)：兵式訓練の様子

筭小学校が誕生して数年経ったころの写真です。校舎は木造で、校庭には砂利が敷きつめられていました。

体育の時間には、学校に用意してある木で作った「てっぽう」を使って、兵式訓練も行われていたようです。

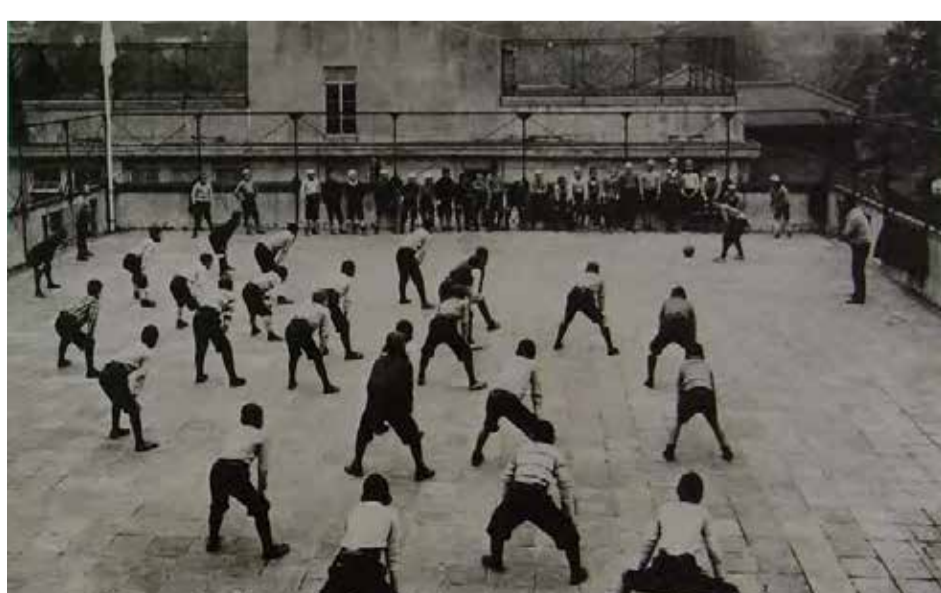


大正時代：女子、歴史の勉強



大正9年(1920年)：女子の体操の授業

体育の時間でも体操着や運動靴には着替えず、着物に袴(はかま)のままで体育をしたそうです。



昭和6年(1931年)：
屋内体操場屋上での運動



昭和47年(1972年)：
筭公園(理科学習)

大正時代までは、男女とも木綿の羽織を着て、袴をはいていました。男子は坊主頭、女子は髪を腰までのばして多くはリボンをつけていました。

昭和に近づくと、男子は半ズボン、女子はスカートの洋装に変わってきました。

昭和45年(1970年)に学校の隣に筭公園ができると、公園の一部を使って理科の学習などが行われました。

筭小学校の周辺(外苑西通り)



出典:『増補 写された港区三(麻布地区編)〜麻布・六本木〜ほか』港区教育委員会

昭和34年(1959年):霞町(西麻布)交差点方面を見る
筭小学校西側の大通り(外苑西通り)は、昔は半分が路面電車の通る軌道でした。



写真所蔵:前田三枝子氏

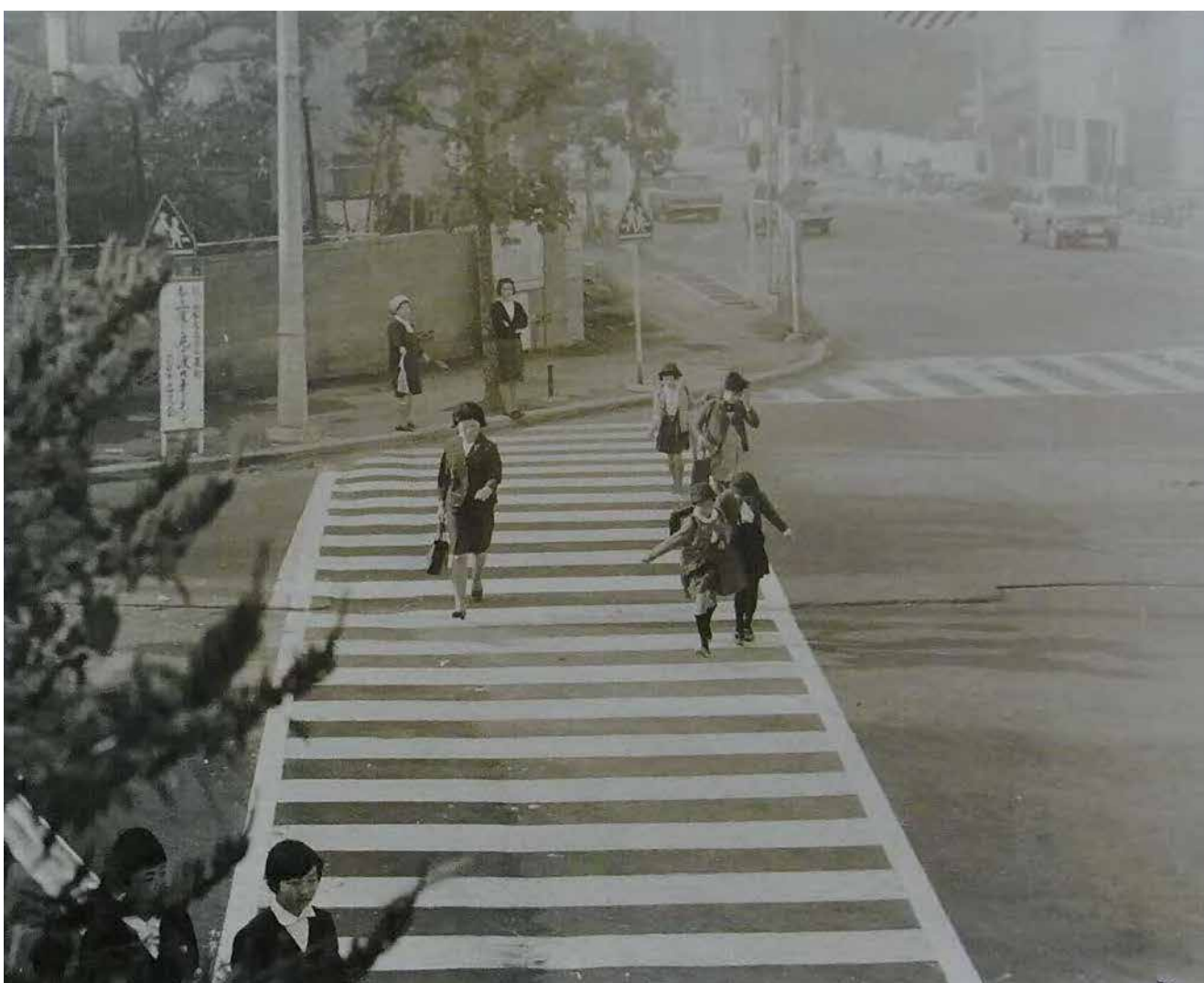
昭和38年(1963年):霞町(西麻布)交差点方面を見る
地下鉄日比谷線の工事風景です。この写真から1年後、東京オリンピックの年に霞ヶ関〜恵比寿間などが開通しました。



昭和47年(1972年):右上の写真とほぼ同じ地点



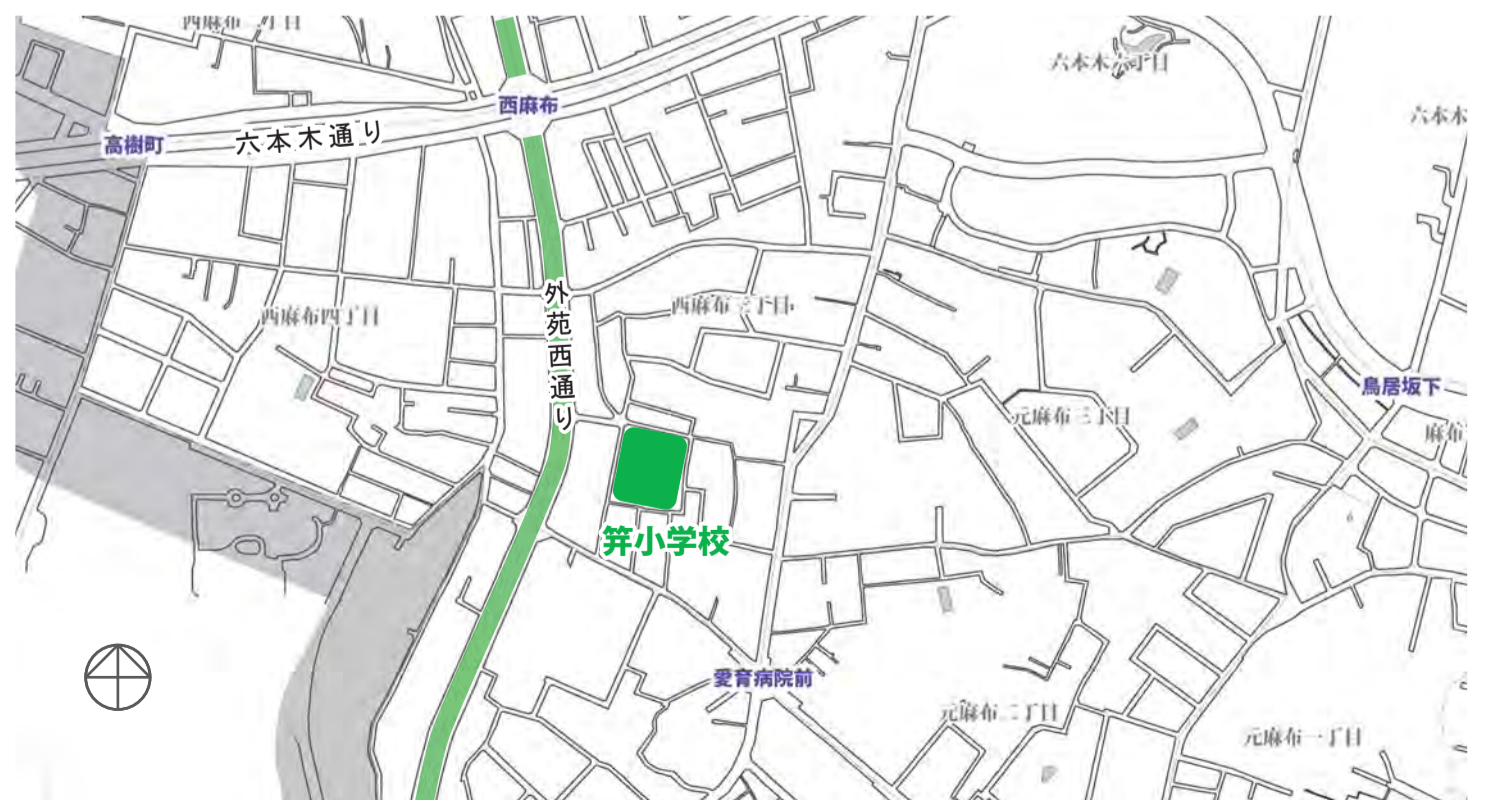
昭和23年頃(1948年頃):西から見た筭小学校



昭和42年(1967年):登校風景 日赤病院下

このパネルに掲載されている古い写真について/写真提供:港区立筭小学校

中段右の写真では、中央奥の電柱が立っているところが現在の外苑西通りです。右端の人物は富井宗雄先生。先生は明治41年(1908年)筭尋常小学校に赴任され、大正11年(1922年)に校長となりました。以来およそ26年間、大戦中の困難な時代をはさんで昭和23年(1948年)まで、筭小学校のために尽くされました。



こうがい

筭小学校の周辺(西麻布交差点)



昭和47年(1972年):西麻布交差点(筭坂 坂下から)



平成9年(1997年):西麻布交差点



(左)昭和50年(1975年):筭坂 坂下から、(中)昭和30年代:霞町交差点、
(右)平成26年(2014年):西麻布交差点(六本木方面)



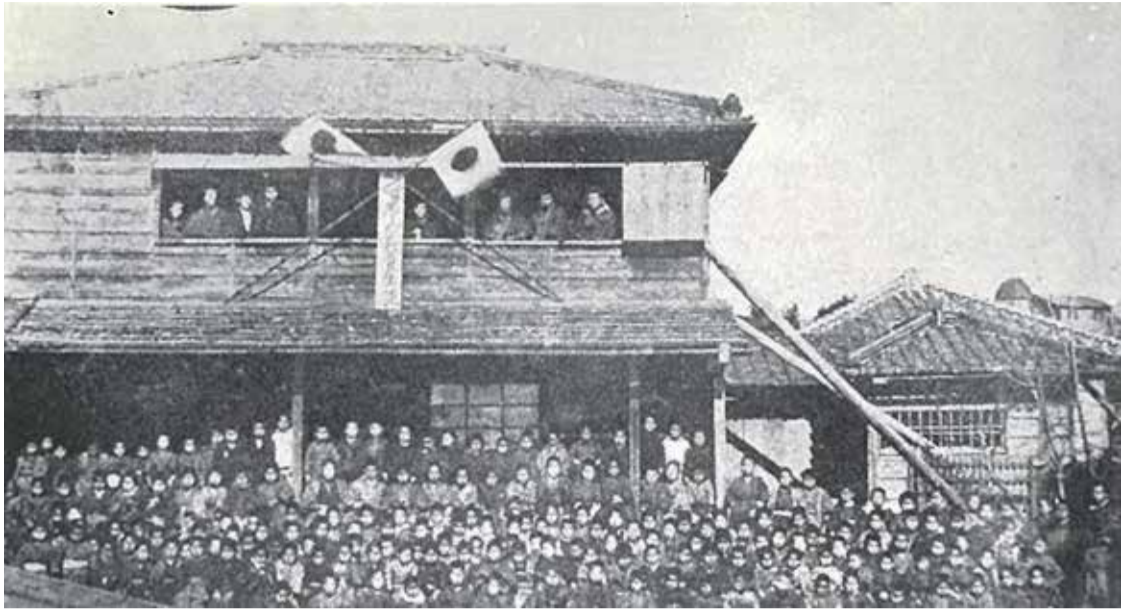
昭和52年(1977年):西麻布交差点(六本木方面)



平成9年(1997年):西麻布交差点

このパネルに掲載されている古い写真について/写真提供:港区立筭小学校、(写真中段左端)写真撮影:田口政典氏、提供提供:田口重久氏

旧飯倉小学校(校舎)



明治27年頃(1894年頃):最初の校舎
(森元町)



昭和3年(1928年):
改築された校舎(中之橋付近)



昭和14年頃(1939年頃):
中之橋から見た校舎



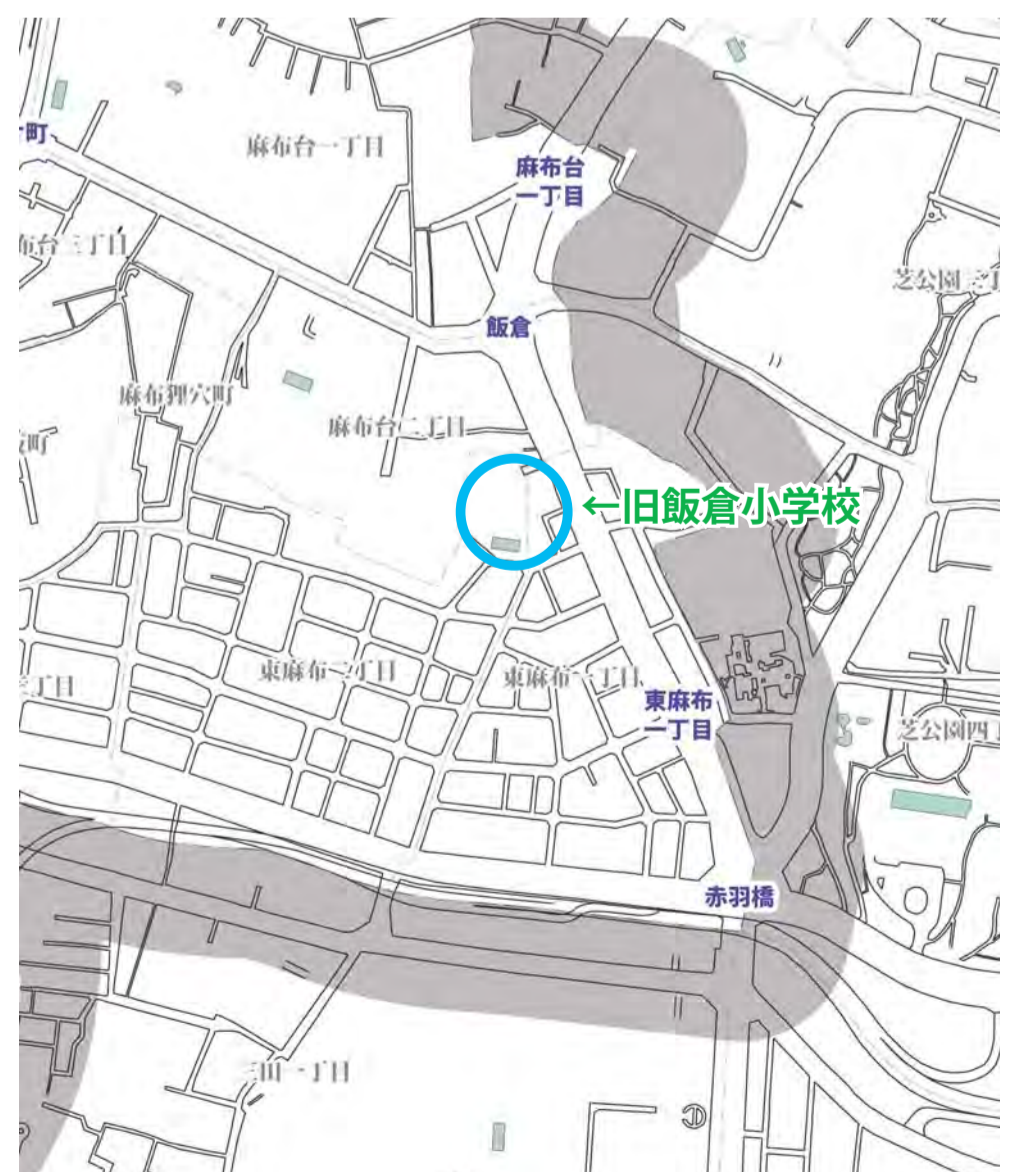
昭和33年頃(1958年頃):旧飯倉小学校 80周年記念 講堂完成



昭和33年頃(1958年頃):
旧飯倉小学校正門(土器坂側)



昭和41年頃(1966年頃):旧飯倉小学校校舎全景 プール完成後



参考資料:飯倉小学校開校百年『記念誌いぐら』

このパネルに掲載されている写真について/写真提供:旧飯倉小学校メモリアルスペース

【麻布未来写真館】

旧飯倉小学校



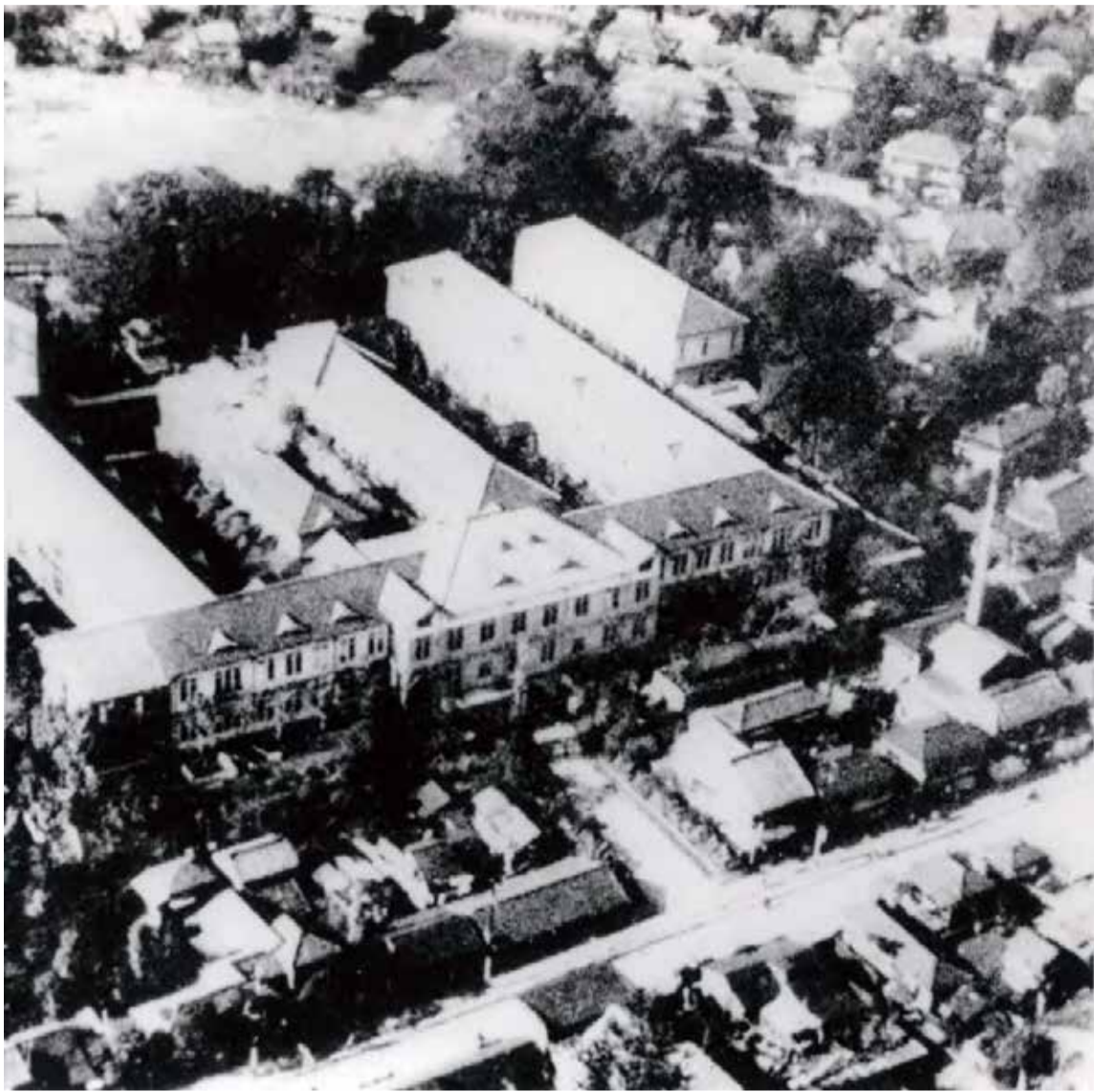
旧飯倉小学校メモリアルスペースさまから、多くの写真をご提供いただきました。その写真の一部をご紹介します。

東京府立第三高等女学校と仰光寮①

現在の六本木六丁目(旧麻布日ヶ窪)、区立六本木中学校のある場所には、かつて東京府立第三高等女学校(府立第三高女)があった。同校は現在の東京都立駒場高等学校の前身であり、同地の歴史を探ってみた。

「東京府立第三高等女学校」

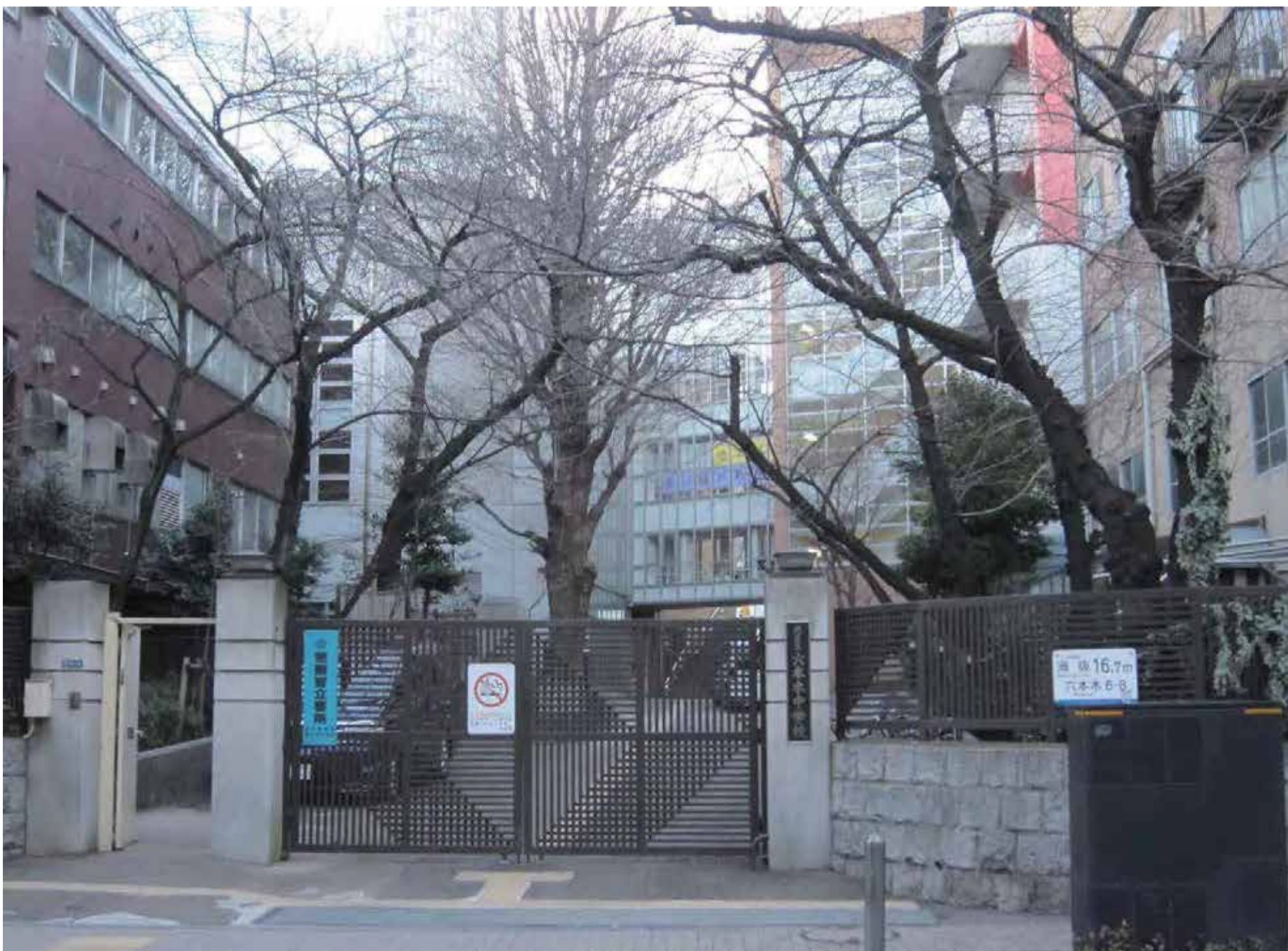
府立第三高女は、明治34年(1901年)に創立され、翌35年(1902年)4月より東鳥居坂町東洋英和學校校舎の一部を間借りして授業を開始した。同年8月に日ヶ窪に校舎が一部落成・移転し、9月には授業を開始した。



明治35年(1902年):
府立第三高女 麻布日ヶ窪校舎
『東京都立駒場高等学校60周年』より



昭和57年(1982年):
港区立城南中学校(後の港区六本木中学校)



平成29年(2017年):港区立六本木中学校



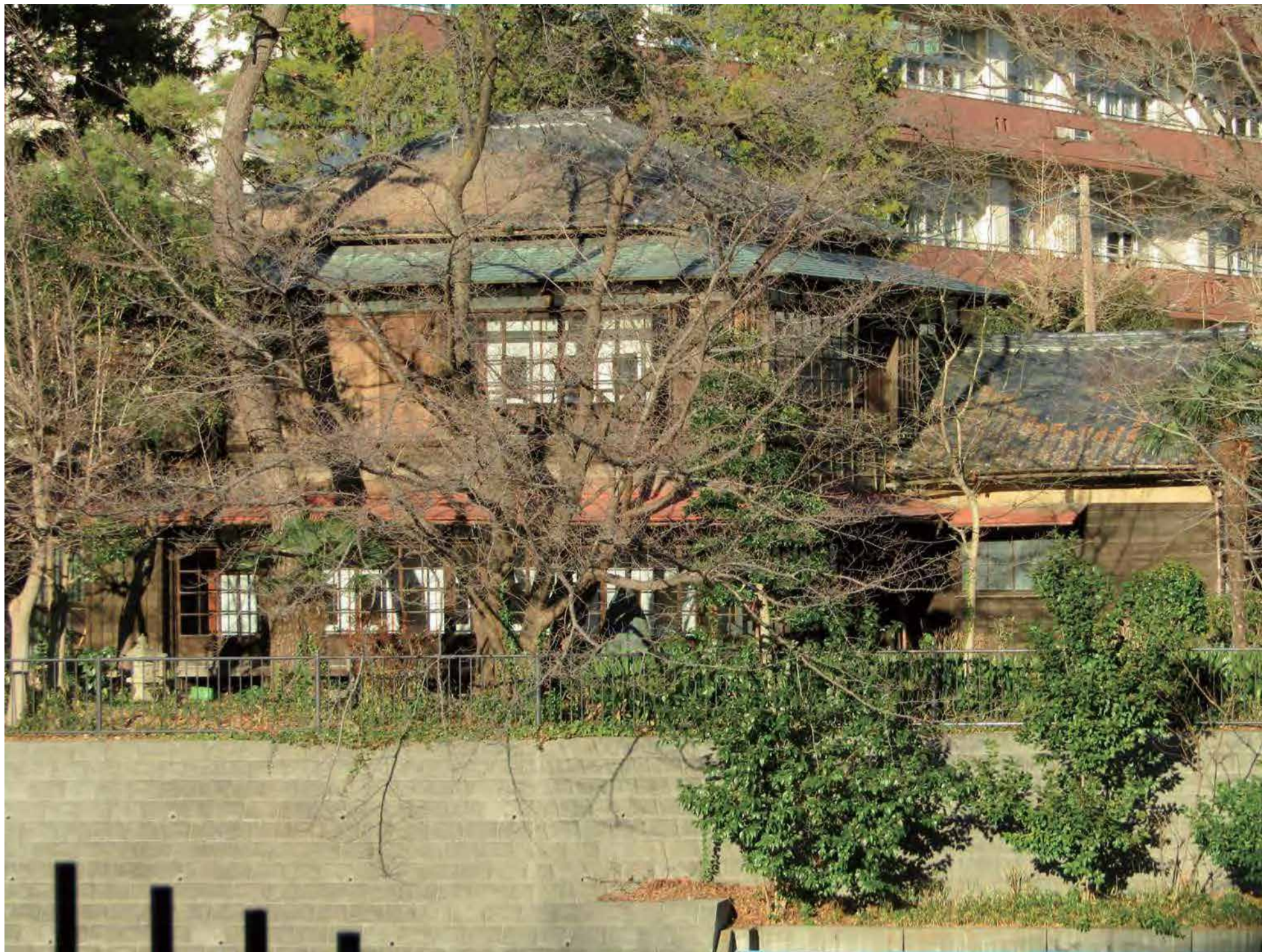
資料:『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』
植野録夫「麻布区詳細図」から編成[昭和12年(1937年)]



参考文献・参考サイト:『港区教育史』上巻 (東京都港区教育委員会編集発行)昭和62年2月28日
『山路を越えて』(創英社、嶋田美津子著)平成4年2月15日
「東京都立駒場高等学校」沿革 http://www.komaba-h.metro.tokyo.jp/site/zen/entry_0000003.html
「財団法人 駒場松桜会」仰光寮 <http://www.komaba.or.jp/gyokoryo.html>

このパネルに掲載されている古い写真について/写真提供:港区立港郷土資料館

東京府立第三高等女学校と仰光寮②



平成29年(2017年):仰光寮

「仰光寮」

「仰光寮」は、香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定された大正7年(1918年)に、その教育の場として久邇宮家邸内に御学問所として建てられ、「御花御殿」と呼ばれていた。

時を経て、昭和8年(1933年)、当時麻布にあった府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられた。

昭和20年(1945年)の空襲で校舎は全焼したが、教員や生徒たちの防火活動により仰光寮は体育館と共に延焼を免れた。翌21年(1946年)、同校は目黒区大橋の旧兵舎に移転されたが、仰光寮は麻布に残り続け、昭和26年(1951年)に同窓会の募金活動により、目黒へ移築された。

「御花御殿」として建てられてから100年を目前とした現在も都立駒場高校の同窓会によって大切に、保存されている。

「府立第三高女の思い出」

嶋田美津子さんは昭和7年(1932年)、府立第三高女へと進学し、赤坂桜町の自宅から5年間通った。その思い出が、著書『山路を越えて』に書かれている。

--日ヶ窪の第三高女の敷地は変化に富んでいて、正門、テニスコート、運動場と三段になり、ことに上の運動場には道灌山といって、緑の樹木におおわれた築山風の山があった。昔の古墳だそうである。校庭のあちらこちらには桜があり、四月上旬花ざかりの頃、全校によるお花見があり、昼食後和泉屋の餅菓子が配られた。ことに、入学最初のお花見など春爛漫の校庭で餅菓子をいただきながら、夢心地であった。



嶋田美津子さん：
府立第三高女の制服姿、
胸には校章もつけている。

『山路を越えて』
(創英社、嶋田美津子著)より

府立第三高等女学校及び仰光寮に関する略年譜

明治34年(1901年)	12月12日	○創立
明治35年(1902年)	4月24日	○開校(東鳥居坂町東洋英和學校校舎の一部を借りて授業開始) ○1年3クラス、2、3年2クラス 計280名
	8月28日	○校舎一部落成し、日ヶ窪校舎へ移る
	9月	○本校舎にて授業開始
明治36年(1903年)	10月30日	○開校式
明治38年(1905年)	3月	○第1回卒業式(卒業生 65名)
大正7年(1918年)		●香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定。 ●麴町1番町の久邇宮邸内に「御花御殿」が建てられる(後の「仰光寮」)。
大正8年(1919年)		●久邇宮家と共に御花御殿が渋谷区広尾4丁目に移転
昭和8年(1933年)		●御花御殿が府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられる。
昭和20年(1945年)		○空襲で校舎が全焼。 ○仰光寮及び体育館は延焼を免れる。
昭和21年(1946年)	9月	○目黒区大橋の駒場へ移転
昭和25年(1950年)		○東京都立駒場高等学校と校名変更
昭和26年(1951年)	11月11日	●都立駒場高校へ移築

○府立第三高等女学校に関する事項

●仰光寮に関する事項

参考文献・参考サイト:『港区教育史』上巻 (東京都港区教育委員会編集発行)昭和62年2月28日、『山路を越えて』(創英社、嶋田美津子著)平成4年2月15日

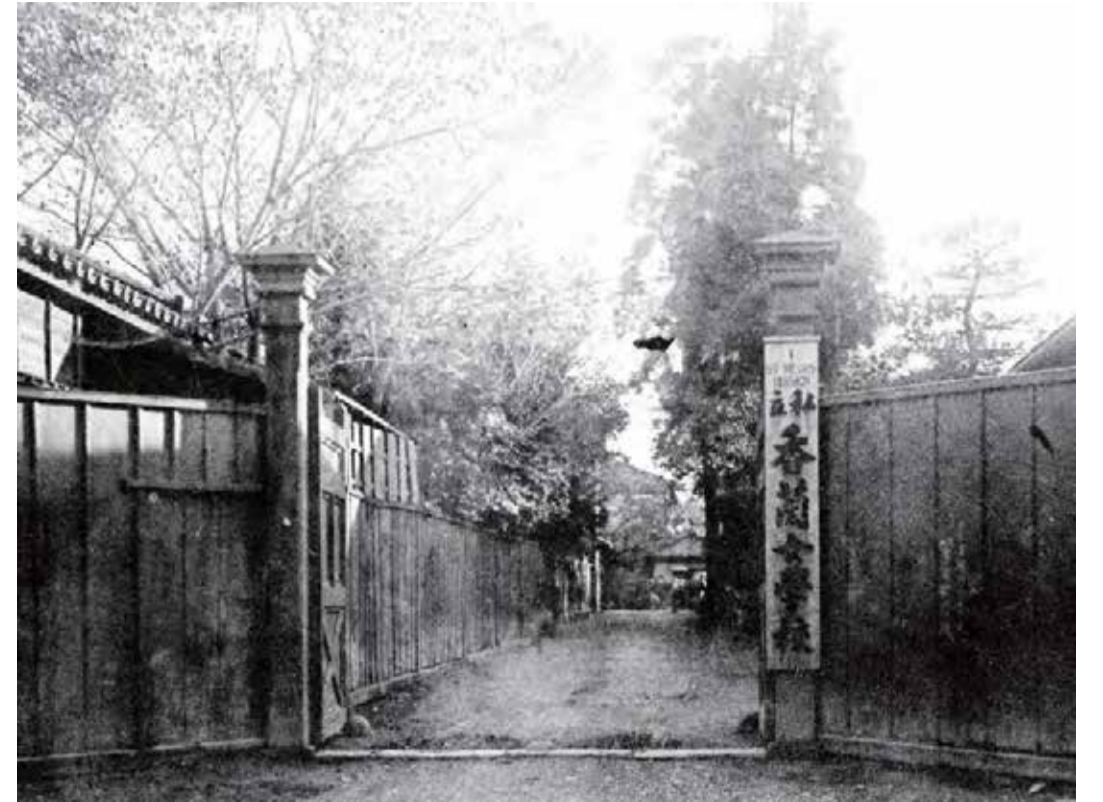
「東京都立駒場高等学校」沿革 http://www.komaba-h.metro.tokyo.jp/site/zen/entry_0000003.html

「財団法人 駒場松桜会」仰光寮 <http://www.komaba.or.jp/gyokoryo.html>

麻布にあった女学校(香蘭女学校)



創立当時の校舎



当時の校門

永坂時代の校舎

東京府麻布区永坂町1番地の島津忠亮子爵邸の一部を借り受けて明治21年(1888年)3月校舎落成、4月開校、修業年限4年、当初の生徒数7名、7月には16名となった。

明治23年(1890年)、予科(2年)を置いたのに続き、その9月には香蘭女子小学校を付設、さらに神学部・手芸部も付設し、明治36年(1903年)の学則変更によって予科2年・本科6年と定められた。

明治43年(1910年)には高等科を設け、生徒数100名を少し上回るまでに発展したが、同年11月16日失火による火災によって、36室を焼失した。しかし、存続を望む声が大きく、内外の人々の協力により再建されることになった。



永坂校舎にあった礼拝堂



当時の白金三光町の新校舎

再建された白金三光町の新校舎
芝区白金三光町360番地、山路将軍邸跡の2,500坪余の土地に新校舎完成、大正元年(1912年)9月19日、落成式が行われた。



当時、香蘭女学校があった場所は、現在のブリヂストン美術館分室付近。

※現在の香蘭女学校 中学校・高等学校は、品川区旗の台六丁目にあります。

平成27年(2015年):現在の香蘭女学校

